

学校 教育 目標	「生きる力にあふれる子」 ○主体的に問題に働きかけ、自分らしさを発揮しながら粘り強く解決していこうとする子を育てます。(知) ○互いのよさを認め合い、共に生きていこうとする子を育てます。(徳) ○自分や他者の生命を大切に、自ら進んで健康な生活をしようとする子を育てます。(体) ○地域に愛着をもち、自分から地域社会に関わろうとする子を育てます。(公) ○より広い視野で行動しようとする子を育てます。(開)			
	学校 概要	創立 48 周年 児童生徒数: 270 人	学校長 藤田陽子 主な関係校: 横浜市立橋中学校	副校長 飯島明良 2 学期制 一般学級: 11 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	橘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	橘中学校 今井小学校 仏向小学校 初音が丘小学校 藤塚小学校	○自己肯定感をもち、豊かに表現し、他者と学びあう子ども ・「自分づくりに関する力」をブロック小中一貫教育のテーマとして設定し、学校生活において力を発揮できるよう意識して取り組む。 ・教育活動を通して、自分らしさを発揮しようとする姿勢や、他者を理解しようとする態度を養う。

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりを大切に、まちとともに歩む学校にします。 ・基礎基本の定着を図り、子どもの「考える力」を育て、学力の向上を図ります。 ・様々な「人」「こと」とのかかわりの中で、互いに「認め合う力」を育て、自己有用感を感じることができる学校づくりを行います。 ・子どもたちが安心して過ごせる、安全な学校づくりを行います。 ・家庭・地域とともに子どもたちを育て、人とのかかわり合いを通して、学びの充実を図ります。
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	スキルタイムでは、学習に沿った問題を準備して児童の意欲を高めたり、全学年一斉に補充の時間を設けたりして基礎基本の定着を図る。授業を通して、自分の考えをもち、お互いに伝え合う機会を増やしたりして、表現力の向上を図る。家庭学習では、児童の取組の様子をみとり、授業との効果的なつながりを意識して課し、家庭の協力を仰ぎながら学習内容の定着を図る。
徳 豊かな心	児童会活動を中心に進んであいさつをする心を育み、人とのかかわりを深める。縦割り活動(絆活動)を計画的に実施し、異学年交流の充実を図る。「特別の教科道徳」学習や学級、学年での様々な学校生活を通して、人への思いやりの心を育てていく。
体 健やかな体	児童会活動、学級活動の中で児童が外遊びの楽しさやよさを実感できるような支援をし、外遊びを継続的に促す。委員会活動や学校保健委員会を中心に、健やかな心や体、食の大切さなどについて考える機会を設け、健康的な生活を送れるよう支援する。
公 開 教育課程	小中ブロックや地域などと連携したり、児童の実態を的確に踏まえたりするだけでなく、職員全体で児童のめざす姿を明確にして、学校での教育活動を通してカリキュラムを検証する。また、各学年で各教科・単元の評価規準を見直す機会を毎月設ける。重点研究や学年で連携した教材研究を十分に行い、指導力の向上に努め、分かる授業・考える授業作りをめざす。
いじめへの対応	「藤塚小学校いじめ防止基本方針」を基に、全職員でいじめ根絶に向けて取り組む。学年やブロックなどで情報共有を行ったり、毎月1回以上いじめ防止対策委員会を開催したりしながら児童の実態を把握し、全職員で情報を共有しながらいじめの未然防止、早期発見・解決に努める。いじめアンケートやYPアセスメントを年2回以上実施することを通して、児童の人間関係を把握し、横浜プログラム等を活用しながら、よりよい集団作りができるようにする。
人材育成・ 組織運営(働き方)	校内外の研究・研修を通して、授業及び学級経営など様々な指導力の向上に努める。メンターチームの活動を教職員全体で支援し、共に実践していくことで、個々の教職員の指導力や全体の組織力を高められるように努める。全職員の意識改革を図り、働き方についてのさらなる組織運営の改善を行う。
児童指導	YPアセスメント等を活用することにより、児童の人間関係を把握して、組織的に適切な支援を行う。藤塚スタンダードを定期的に見直し、指導のあり方について教職員全体で共通理解を図る。誰もが安心して安全に生活するために大切な事を考え、行動できる力を育む。
特別支援教育	個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、個に応じたよりよい支援、指導を実施する。児童支援専任・特別支援コーディネーターを中心として、様々な研修や情報交換などを定期的に行い、共通理解のもと全職員で児童にかかわっていく。家庭、地域また、他機関と連携しながら児童支援を行っていく。
地域連携	年3回の学校運営協議会を軸に学校・保護者・地域が教育活動の目標を共有し、地域と一体になって学校教育活動の推進に努める。地域コーディネーターや各ボランティアの方々との連携協力することで、人と豊かにかかわり、より良く生きようとする児童の力を育む。
担当	